



アグリーフだより

No.16

平成 26 年 10 月 17 日発行
社会福祉法人ひとふさの葡萄 アグリーフみのぶ

今年の夏は、お盆以降変な天気でした。まるで梅雨に戻ってしまったかのような日が続いたかと思えば、広島で大雨のために住宅地が大きな被害を受けたり、9月には御嶽山で噴火が起こったりしました。

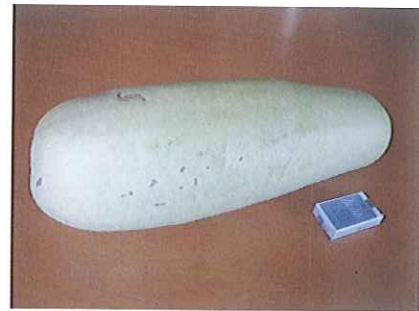
広島の災害は、日本の住宅事情を考えるとどこで起きてても不思議はありません。富士山も噴火する恐れがあるので、山梨に住んでいる私たちにとっても他人事ではありません。

自然災害は防ぎようがありませんが、人間は自然の恩恵を受けています。しかし、自分たちの豊かな生活のために動植物の生息環境や地球環境そのものを破壊し続けると、取り返しがつかないことになるということを忘れてはならないと思います。手遅れの状況になっていなければよいと願うばかりです。

今年の新しい野菜です

今年はユウガオと黄色のズッキーニを作ってみました。ウリハ虫に葉を食べられ、どうなるかと思いましたが、なんとか被害を抑えて、収穫することができました。

ユウガオはいつ収穫してよいものかわからず、重さが5~6kg、長さが60cm位にまで成長しました。味はよかったです。売れるのか心配しましたが、意外と売れました。



友果の仕込みをしました

今回は利用者、職員共に初めて行う人が多かったので、始める前に十分な説明とシミュレーションをしました。本番では一人ひとりに応じた作業の分担をして行いました。

そのおかげで、トラブルもなく無事に終わることができました。今までで、一番スムーズにできたようです。

実習生が3人来ました。

9月9日から26日まで、わかば支援学校高等部の生徒さん3名が実習に入りました。

新しく始めた「裂き織り」や畑の作業(野菜の収穫、種まき等)に挑戦していました。



利用者会議(仮称)を定例化することになりました。

現在、利用者数も増えて12名の人たちが皆で協力しながら活動をしています。人が多いと、にぎやかで活気も出ているのですが、その反面で作業や人間関係などの面でトラブルも起きてきます。そういうことを解消するために皆で考える場を設けることにしました。話が好きな人もいれば苦手な人もいますが、アグリーフみのぶをより良くして行くために今後も継続して行くことになりました。